

【3日目/5月24日(つづき)】

旅客機が着陸してしばらくすると、私が確信していた通り、南の水平線のわずかに上の空だけ雲が去り、晴れ間が見えてきました。



画面ではわかりにくいかも知れませんが、水平線のわずかに上に晴れ間があり、恒星が一つ写っています。



その付近をやや望遠で撮影し、カメラのモニターで確認すると、二つの恒星が写っていました。この二つの星は肉眼でもはっきり見えました。

この二つ星は、方位・地平高度から見て、南十字座の α 星(アクルックス/下)と β 星(ベクルックス/左上)に疑いはありません。いずれも一等星です。 α 星は本来白っぽい恒星ですが、水平線に近いため、赤っぽく見えました。写真でもややオレンジ色に見えます。朝日や夕日が赤っぽく見えるのと同じ原理です。

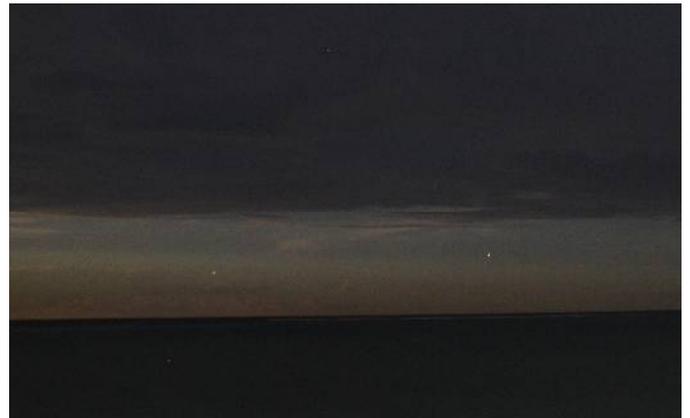
恒星2個とは言え、「とりあえず」南十字星の星を肉眼で確かめ、写真に撮ることに成功しました。残念ながら、この時点では残りの2星、 γ 星(ガクルックス/二等星)と δ 星(イマイ/三等星)は雲に隠れ

て見えませんでした。



(ステラナビゲーターによるシミュレーション)

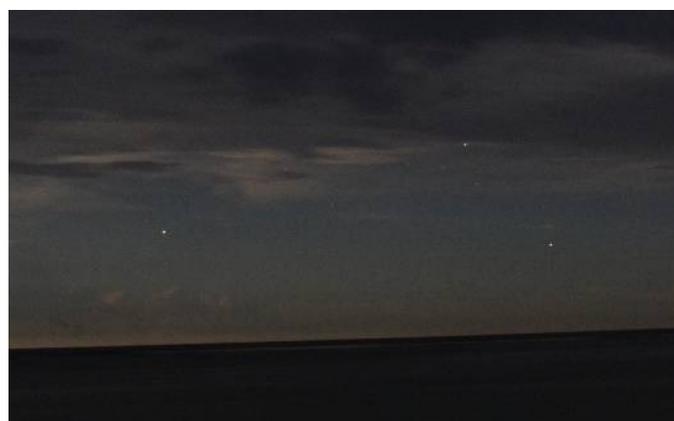
南十字座は、広さが約 68.4 dig²(平方度)しかなく、全天 88 の星座の中で最小です。しかし「オリオン座」や「ケンタウルス座」と並んで、全天で 21 個しかない一等星のうち、2 個も独占しているすばらしい星座なのです。その2個とも見られたのですから、この辺で満足しても良さそうな気がします。



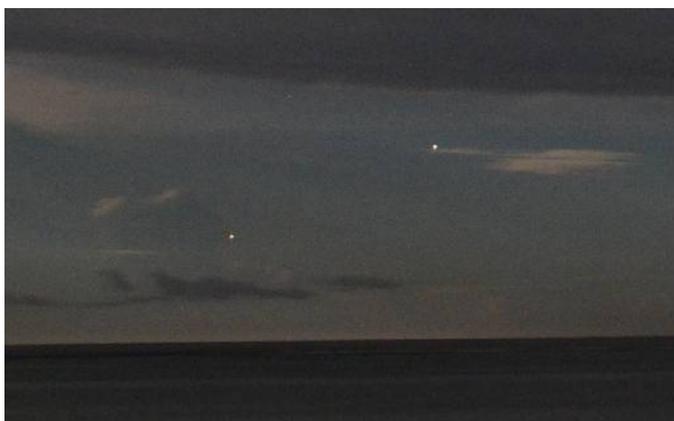
この日は与那国島を日帰りで往復したので、相当に HS (ハードスケジュール) でした。しかし、水戸納豆なみに粘っていると、今度は南十字座の左側(東側)のかなり離れたところに、もう一つ赤っぽい恒星が現れました。方位と高度から、この恒星はケンタウルス座 β 星(ハダル)です。この星も関東では絶対に観望不可能なので、見たいと思っていた星の一つです。



この日は満月から2日後で、月明が天体写真撮影の邪魔をするはずでした。しかしそこは、本来「天体写真の敵」であるはずの「雲」が「むかえ討ち」にしてくれました。月の位置にちょうど積乱雲があって、長時間月明を遮ってくれていたのです。

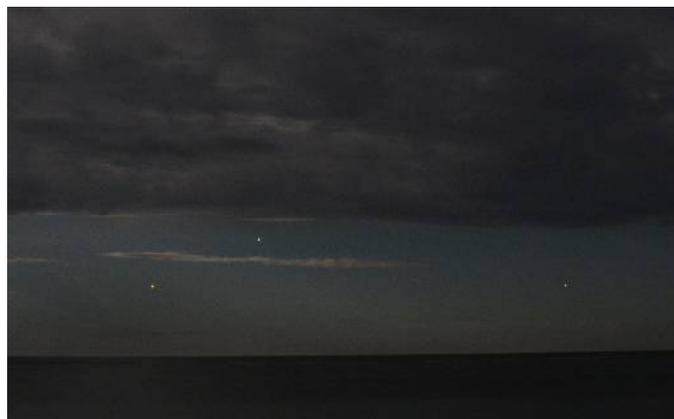


南十字座はすでに南中時刻を過ぎていたので、少しずつ西に傾きながら沈んでいきます。ケンタウルス座β星は、逆に東から昇ってきました。しばらくすると、南十字座α星とケンタウルス座β星は高度が逆転していました。



更に数十分たつと、ケンタウルス座α星も昇ってきました(写真左の恒星)。太陽系からわずか4.3光年に位置する、地球から見て太陽の次に近い恒星です。

次の写真は、左から「ケンタウルス座α星」ケンタウルス座β星」少し離れて「南十字座α星」です。



いずれの恒星も、この時点での地平高度は3度以下で、その隙間だけが晴れていたということです。まさに「奇跡の光景」でした。

そろそろ宿に帰ろうか・・・とも思いましたが、次回はいつ石垣に来られるかわかりません。石垣島で南十字星が観望可能なのは1月～6月頃なので、もし夏に来られたとしても、もう南十字星は見られないのです。私は更に粘り強く待ちました。すると・・・



キター-----っ！！

見ているのは南なのに「キター！！」と叫びました。雲の隙間から、南十字星の4つの星が全部見えたのです。写真にも写っています。決して満足のいく写真ではないですが、嬉しかったです。開高健風に言えば「自然は、愚かな旅人にわずかに雲の窓を開き、南天の宝石を少しだけ見せてくれた」ということでしょう。